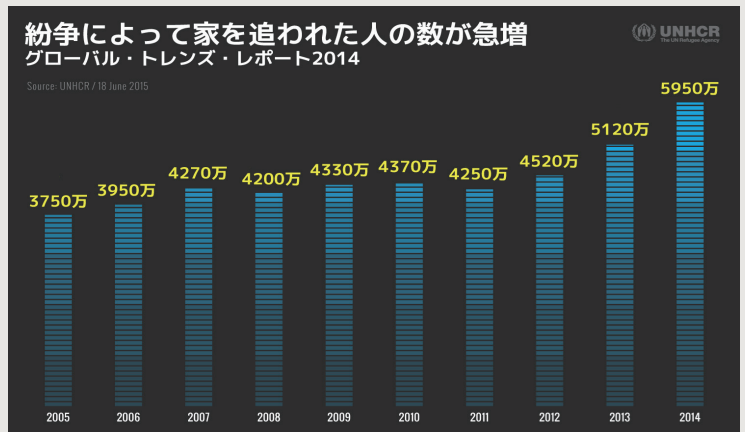


紛争や迫害を恐れ、家を追われた人の数がUNHCRの統計上、過去最多になり、且つ急増していることがわかった。グローバル・トレンドズ・レポート(年間統計報告書)によると、2014年末時点で移動を強いられた人の数は5950万人で新たに1390万人が家を追われた。1年間に増えた人数としては最多である。

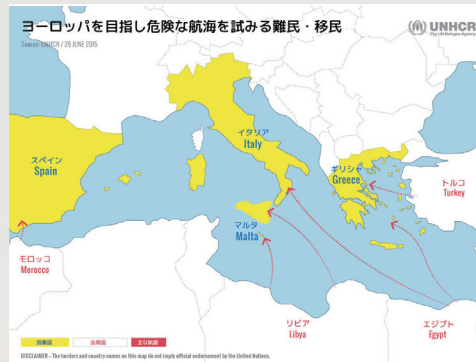
人数が急増し始めたのは2011年からだが、これはこの年に始まったシリア紛争が大きな要因である。5950万人という数は、2014年毎日平均4万2500人が難民や、庇護申請者、国内避難民になったことを意味する。この数は5年間で4倍に膨れ上がり、世界中で122人に1人が難民、避難民、庇護申請者になったことになる。また5950万人は世界で24番目に大きな国が出来る規模である。

以下の数値は2015年6月にUNHCR本部が発表したグローバル・トレンドズ・レポート2014(年間統計報告書)に基づく。



欧州を目指す難民が急増

紛争や迫害を恐れ、地中海を船で渡り欧州へ逃れる人が急増している。海路で欧州へと逃れた人々の半数が国際的保護を必要としているシリア出身者で、その次に多いのがアフガニスタン、エリトリア出身者だ。イタリア、ギリシャ、スペインなどに船で辿りついた人々はバルカン半島西部やハンガリーなどを經由し、目的地であるドイツや北欧などを



を目指して更に移動を続ける。ギリシャ、マケドニア、セルビアの3ヶ国では、シェルター、食糧、水などが不足しているが避難生活をする人が増加しており、UNHCRは地元のコミュニティと協働で支援活動を行っている。

新たな避難民 --1390万人

紛争や迫害によって、新たに290万人の難民を含む1390万人が避難を余儀なくされた。また1100万人が新たに国内避難民となり史上最多となった。

避難を余儀なくされた人 --1日に4万2500人

紛争や迫害によって1日あたり平均4万2500人が国内外で保護を求め、避難を余儀なくされた。

UNHCRの支援対象者 --5490万人

2014年末時点でUNHCRの支援対象者は5490万人であり、過去統計上最も多い数である。

無国籍者 --約1000万人

2014年にUNHCRに報告された無国籍者数は約350万人であるが、実際は少なくとも1000万人以上が無国籍者であるとみられる。



アンジェリーナ・ジョリー UNHCR特使からのメッセージ



10周年を迎える難民映画祭の開催、誠にありがとうございます。今年の映画祭を通じて、世界で数千万人にもものぼる今日の難民についてより多くの方々が知り、その力強さと尊厳について祝福する機会となることを願っています。

—アンジェリーナ・ジョリー UNHCR特使



第10回UNHCR難民映画祭の上映作品の中から3作品を選び、描かれている物語の背景をご紹介します。

①南スーダン

20年以上続いた内戦を経て2011年7月に独立した国「南スーダン」。2013年に武力闘争が起き、南スーダン出身の難民・国内避難民は合わせて260万人に上る。(2015年8月現在)



Pick Up! 関連作品『グッド・ライ〜いちばん優しい嘘〜』

1983年スーダンで内戦が始まり、数万人の子ども達が孤児となりました。この映画はロストボーイズと呼ばれた南部スーダン出身者の実話をもとに描かれた作品。難民キャンプで育った3人が第三国定住でアメリカへ、受け入れ先のアメリカではどんなドラマが起こったのでしょうか。



フィリップ・ファラルドー監督/アメリカ/2014 110分 / ドラマ



映画「グッド・ライ」にも出演したゲール・ドゥエイニー（俳優/モデル）は UNHCRの親善大使です。ゲールはスーダン南部（現在の南スーダン）で生まれ、内戦の中、強制的に少年兵として徴兵されました。14歳でエチオピアの難民キャンプへと逃れ、その後第三国定住でアメリカへ移りました。当時英語の読み書きは出来ませんでしたが、努力

を重ね、アメリカの大学を卒業しました。2014年にケニアのカクマ難民キャンプで母親と再会を果たし、2015年にはUNHCRの親善大使に。ゲールは今、難民に寄り添い、難民のためにメッセージを発する活動を精力的に行っています。

難民映画祭について

「UNHCR難民映画祭」は、一人でも多くの方の難民問題への認識の向上を目指す取り組みとして、UNHCR駐日事務所が2006年より開催してきました。

②シリア

2011年にシリアで紛争が始まってから周辺国へ逃れる難民は増え続け、今年7月に400万人を突破した。同時に、シリア国内には少なくとも760万人が国内避難民として支援が届きにくい地域に避難している。シリア周辺国に避難している難民の間では、帰還への希望が薄れつつある。生計を立てるために児童労働や物乞い、児童婚などを強いられる子どもが増えている。また難民受け入れコミュニティでも難民の急増によって雇用や水、公共サービスが逼迫するなど厳しい状況が続いている。



Pick Up! 関連作品『目を閉じれば、いつもそこに〜故郷・私が愛したシリア〜』

紛争によって最大の難民発生国となったシリア。インタビューを通して伝えられるのは、平和な街、人々の優しさ、笑い声、そして故郷へ帰りたいという強い願い。そこには破壊されてしまった街のイメージとは程遠い「誰もが愛する故郷シリア」があります。シリア難民の故郷への想いを丁寧に伝えるドキュメンタリー。



藤井沙織監督/日本/2015 / 57分 / ドキュメンタリー/日本初上映

③アフガニスタン

アフガニスタンでは1979年のソ連軍の侵攻、タリバン政権の圧政などにより、600万人以上が難民となって周辺国パキスタンやイランに逃れた。そして2002年に入り、治安が回復しつつある地域への帰還が始まった。これまでにパキスタンから帰還したアフガン難民は390万人に上るが、依然150万人のアフガン難民がパキスタンで生活している。(2015年8月現在)



Pick Up! 関連作品『ボクシング・フォー・フリーダム』

アフガニスタンの女子ボクシング界で最も優れた選手、サダフ・ラヒミ。彼女は幼少期を難民としてイランで過ごしました。新しいアフガニスタン人女性の生き方としてボクシングと学業の両立を目指すサダフは、周囲からの反発や脅迫など様々な困難に直面します。Boxing for freedom—それはアフガニスタンの全ての女性の自由と権利を勝ち取るための挑戦でもあります。



ホアン・アントニオ・モレノ・アマドール、シルビア・ベネガス・ベネガス共同監督作品/スペイン、アフガニスタン / 2015 / 74分 / ドキュメンタリー/日本初上映

WEB
サイトは
こちら▶



国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所
〒107-0062 東京都港区南青山 6-10-11 ウェスレーセンター
TEL:03-3499-2011 FAX:03-3499-2272

HP www.unhcr.or.jp
Facebook www.facebook.com/unhcrorjp
Twitter @UNHCR_Tokyo